

第3回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議 会議録

1. 開催日時 令和7年7月14日（月） 15時00分～17時20分
2. 会 場 軽井沢発地市庭 イベントスペース
3. 出席者 委員：荒井 英治郎委員、三和 秀平委員、木村 泰子委員、
西郷 孝彦委員、福本 理恵委員、飯澤 幸世委員、
西野 博之委員、岡田 敏之委員、
唐沢 浩一氏（代理）、臼田 瑞希氏（代理）、
本城 慎之介委員、上原 浩子委員、山崎 伸一委員
久保 貴史委員、諸星 ひとみ委員、岩崎 ひとみ委員
事務局：宮本 隆教育長、内堀 繁利アドバイザー、岩井 和成課長、
金井 章宏課長補佐、金井 拓也係長、
学校教育係職員 小林 真理、堀本 淳子
軽井沢高校・教育魅力化推進係職員 根津 彩香、桐野 耕介
4. 議 題 （1）第2回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議
のまとめ
（2）「私たちの学校」をつくるアンケートについて
（3）「私たちの学校」をつくるワークショップについて
（4）夜間中学について
（5）設置場所について
（6）その他
5. 傍聴人数 18名

6. 議事内容

● 1. 開 会

【岩井こども教育課長】

それでは定刻となりましたので、ただいまより第3回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議を開催いたします。

本日はご多忙のところ、また遠方より多くの皆様にご出席賜り、ありがとうございます。

これまで第1回、第2回の会議では、委員の皆様より貴重なご意見を賜り感謝申し上げます。

本日の議題では、頂いた意見を踏まえ、実施した内容を報告させていただきますのでよろしくをお願いいたします。

本日の司会進行を務めさせていただきます、こども教育課長の岩井と申します。

よろしくお願いいたします。

それではすいませんが、着座にて失礼いたします。

会議に先立ちまして、事務局よりお願いいたします。

本会議は、前回会議と同様に対面およびオンラインの併用とさせていただき、原則として、事業名にもあるとおり「オープン」＝「公開」とさせていただきます。

また、本日は、メディア等の関係者、傍聴者もおられますが、途中での入退場含め自由とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

この会議は事務局において録音、撮影を行い、後日、議事録の形で町のホームページ等に掲載させていただきますので、重ねてお願いいたします。

なお、傍聴人の方で、写真等NGの方は事務局までご連絡いただきたいと思います。

● 2. 教育長挨拶

【岩井こども教育課長】

それでは次第により進めさせていただきます。

初めに、軽井沢町教育委員会教育長であります宮本隆より挨拶申し上げます。

【宮本教育長】

皆さんこんにちは。

お忙しい中、おいでいただきまして本当にありがとうございます。

また、本会議開催の前にはですね、軽井沢風越学園の見学ということで、本城委員には大変いろいろお世話になりました。ありがとうございました。

第2回会議の際、皆さんから意見をいただき、本当にありがとうございました。

その際ご意見いただいたアンケートなんですけれども、児童生徒、そして保護者こういったところに実施いたしました。その結果の報告や、その後に行われたワークショップについてもいくつかご報告させていただきたいと思います。

このアンケートですけれども、前回お示したように、次第の中にも書いてありますけれども、「私たちの学校」をつくるアンケートというふうに名前を付けました。

児童生徒のアンケートのリード文には、こんなふうに書きました。

『軽井沢町では、あなたもまわりの人も、自分らしく学び合うことができ、自分たちが望む学校を自分たちでつくっていける「私たちの学校」を目指していきたいと考えています。』と。

この『「私たちの学校」をつくる』というワードは、様々な場面で使っていこうかというふうに考えております。オープンドアの開設に向けてもそうですが、既存の学校をより魅力化に導いていくということ、さらに教育委員会としても、学校ではありませんが、保育園とか児童館とか、町の施設、こういったものが社会の変化とともに、あるいは利用者のニーズの変化への対応の改革と言いますか、そういったものの総称として、あるいは旗印として掲げていこうかなというふうに考えているところであります。

さて、前回もお話ししたように、委員の皆さんからいただいた意見をもとに、事務局は更なるバージョンアップをして、事業を進めていくつもりですので、委員の皆様のご経験とご知見から、忌憚のないご意見をいただければと思います。本日もよろしくお願いいたします。

以上でございます。

【岩井こども教育課長】

ありがとうございました。

● 3. 座長挨拶

【岩井こども教育課長】

続きまして、荒井座長より挨拶をお願いいたします。

【荒井座長】

皆さんこんにちは。

信州大学の荒井でございます。

本日、第3回目ということで、今教育長からお話ありましたとおり、皆さんにご検討いただきご意見いただきましたアンケートですね、量的にかなりのものになっていますけれども、また後ほど説明いただいて、ぜひお気づきの点等いただけたらと思います。

また、具体的な子どもたちとの触れ合いという意味で、ワークショップなども行っていますので、こちらもこの1回だけではなく今後も続けていくということですので、改善点等ご意見いただけたらと思っています。

また、後半では、夜間中学について、次に実施する予定のアンケートの案というものもお示しさせていただいておりますので、こちらのご確認もお願いします。17時までとなりますけれども、お願いいたします。

以上です。

【岩井こども教育課長】

ありがとうございました。

本日、本田委員、一色委員は所用により欠席のご連絡をいただいております。

また、藤木委員の代理といたしまして、長野県教育委員会事務局 義務教育課 主幹指導主事の唐沢様のご出席をいただいております。

合わせて、向井委員の代理といたしまして、長野県教育委員会事務局 心の支援課 主任指導主事、臼田様のご出席をいただいております。

● 4. 議 事

(1) 第2回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議のまとめ

【岩井こども教育課長】

それでは議題に移ります。

これより先は、設置準備会議要綱第4条第2項により、荒井座長におきまして進行をお願いいたします。

【荒井座長】

よろしくお願いいたします。

では、議題をご覧ください。

本日、6点用意させていただいております。

まず、(1) 第2回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議のまとめということで、事務局から説明をお願いいたします。

【金井軽井沢高校・教育魅力化推進係長】

はい、事務局の金井です。

着座のまま失礼いたします。

それでは【資料1】、下のページ数、1ページをお願いいたします。

第2回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議のまとめになります。

日時：令和7年5月22日（木）午後3時から午後5時10分まで行いました。

会場につきましては、軽井沢中学校多目的室になります。

出席、欠席、そして事務局参加者、傍聴者数につきましては記載のとおりでございます。

会議事項：(1) 第1回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議のまとめ、(2) 今後のスケジュールについて、(3) アンケートについて、(4) 夜間中学ニーズ調査について、(5) その他について議事が行われました。

主な意見、そして質問等は記載のとおりでございます。

2ページをお願いいたします。

(5) その他といたしまして、事務局からスクールコンセプトや設置場所について説明をいたしました。

意見質問等はございませんでした。

第3回目となる本日7月14日、軽井沢発地市庭での開催ということで第2回会議のまとめは以上でございます。

よろしくお願いいたします。

【荒井座長】

ありがとうございました。

ただいま資料１に関して事務局から説明いただきました。

こちらについて、内容等確認いただいて、ご意見等あればと思います。

いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では確認をいただいたということで進めさせていただきます。

●（２）「私たちの学校」をつくるアンケートについて

【荒井座長】

続きまして、（２）に移ります。

（２）「私たちの学校」をつくるアンケートについてということで、【資料２】へ進んでいただきまして、事務局の方から説明お願いいたします。

【金井軽井沢高校・教育魅力化推進係長】

それでは【資料２】 ページ数３ ページをお願いいたします。

これまで実施した１回目、２回目の会議にて、委員の皆様からは、アンケート実施について多くのご意見や質問等をいただき、ありがとうございました。

最終的に事務局にて質問項目を固め、この度、「私たちの学校」をつくるアンケートを実施いたしましたので、報告させていただきます。

趣旨については資料のとおりでございます。

アンケートを実施する上で、『あなたもまわりの人も、自分らしく学び合うことができ、自分たちが望む学校を自分たちでつくっていきける「私たちの学校」を目指していく』、その思いをしっかりと伝えるために、事前の取り組みとして行った項目を説明いたします。

今回アンケートを実施するうえで、委員から実際に児童生徒に対して事前に行ってみてはという意見もいただきました。

事務局としましても、その必要性を感じ、アンケートの試行を行いました。

東地区児童館の児童、保護者の方々、職員の協力を得まして、４、５、６年生の計９名へ聞き取りを行いました。

今回のアンケートの趣旨や質問の意味等確認をしながら、回答をしていただきました。

結論としましては、９名の児童生徒全員が理解をしてくれたという状況でございます。

次に４ 方法、５ 期間、４ ページの６ 対象となります。

学校長、教頭、学級担任、スクールサポーター、教育支援センターとの連携を図りまして、内容等の説明に時間を費やしました。

それらの経過を得まして、アンケート実施日に対象となる児童生徒に趣旨等を説明し実施いたしました。

また、小中学校全校の保護者に対しまして協力の依頼を行いました。

資料にございます写真は、実際に児童へ説明した際の様子となります。

回答期限を設けましたが、何らかの理由で回答を得られていない児童生徒につきましては、学級担任、教育支援センター職員、そしてスクールサポーターの協力を得ながら個別に対応し、現在もなお継続しております。

7 回答者数、8 回収率、9 留意事項につきましては記載のとおりですけれども、回収率につきましては、9割近い回答を現在いただいているという状況でございます。

集計結果につきまして、次のページをご覧ください。

【資料2ー2】、ページ数5ページとなります。

3 小学校全体としての回答結果となります。

問1の質問は、あなたの学校を教えてください。

問2の質問は、あなたの学年を教えてください。

となりますので今回は省略させていただきました。

問3の質問からとなります。

問3 学校に今あるものや、今はないけど今後あったらいいなと思うものについての回答結果となります。

なお、回答は、複数回答可能としてあります。

項目としましては、もの、こと、ひと、時間、ルール、場所等に分けさせていただきました。中段をご覧ください。

「もの」の項目のうち、「授業や学習」が最も多く68名でした。

下段をご覧ください。

内訳の「授業や学習」の意見の中で、自分のペースで学べる授業への意見が多くありました。

また、次の6ページをお願いいたします。

下段の「場所」として、「ゆっくりできる・安心できる場所」で、ゆっくりできる場所、静かでゆっくりできる場所という意見が多くございました。

続きまして、7ページをお願いいたします。

問4の質問に対する回答結果となります。

学校にない方がいいなと思うものについては、「こと」の中の「人権的な問題」が最も多く、69名でございました。

8ページ上段になりますけれども、「人権的な問題」で意見として、みんなの前で怒られることが嫌だとの声が多数ありました。

7ページにお戻りいただきたいと思います。

7ページの中段、「もの」で内訳の「学習①」（授業のあり方）での意見として、ずっと座って話を聞くだけ、または、黒板見て書くだけの授業について意見が多数ございました。

9ページをお願いいたします。

問5と問6の意見の集約については、AIテキストマイニングを利用しまして、青色が名詞、

赤い色が動詞、緑色が形容詞となり、文字が大きいものは数が多いものとなります。

学校づくり全体に対する意見が多くあり、自由にしたいことができる、みんなの意見を尊重する、人の意見を否定しない、という声が多数ございました。

続きまして、11 ページをお願いいたします。

こちらにつきましては、周囲の人との関わりがほとんどの意見で、いじめに関すること、人間関係、友達関係、恋愛に関する意見が多くありました。

続きまして、【資料 2－3】、13 ページをお願いいたします。

こちらは軽井沢中学校での結果となります。

問 3 の回答について、「もの」につきまして、授業や学習が 82 名、「こと」の行事等が 62 名と多く意見がございました。

下段になりますが、「もの」の、授業や学習の意見としては、自分のペースで学べる授業や、I C T 関係に多くの意見がございました。

次の 14 ページをお願いいたします。

上段になります。「こと」の行事については、校外学習関係として、遠足の回数を増やす、修学旅行、山登り等の意見が多くありました。

続きまして、15 ページをお願いいたします。

問 4 の質問になります。

ここでは、「ルール」の外見についてが 87 人と、最も多くの意見となりました。

16 ページをお願いいたします。

下段の「ルール」の外見については、服装などを指定すること、髪の長さや髪色・髪型などを指定する校則について多くの意見がございました。

続きまして、17 ページをお願いいたします。

問 5 のアイデアや意見の中で、18 ページにあります、学校文化やルールの中で、制服の廃止やジャージ生活に関すること等服装関係や、校則の自由度について意見が多くありました。

また、下段の学校づくり全体に関して、生徒の発言する場を多くする、生徒の意見を集められる雰囲気等意見の出しやすさ、反映のされやすさについて多くの意見をいただきました。

また、その下となりますけれども、軽井沢オープンドアスクールへのアイデアもいただきました。

19 ページをお願いいたします。

問 6 の回答です。

周囲の人との関わりの中で、クラスの人への不満や人間関係、友達関係について多くの意見

をいただきました。

続きまして、右上【資料 2－4】、21 ページをお願いいたします。

こちらは教育支援センター利用者、スクールサポーターとの面談実施者についての回答となります。

こちらにつきましては、児童生徒の様子を見ながら、今なお継続して実施しております。

Google フォームでの回答が難しい児童生徒については、個別に聞き取りながら意見を聞いている状況でございます。

問 3 の結果です。

項目、「もの」の中で授業や学校に関することで、ゆっくり勉強ができる授業、授業をゆっくり教えてほしいなどの意見をいただきました。

次の 22 ページをお願いいたします。

問 4 の結果となります。

項目、「こと」の中で、学校文化や学校風土に関し、同じことをしなくちゃいけない感じなどの意見がございました。

続きまして、23 ページをお願いいたします。

問 5 の結果となります。

軽井沢オープンドアスクールへのアイデアと思われる意見の中で、多様な学びの学校と普通の中学の両方通える(行き来)できるようにしてほしいという意見がございました。

次の 24 ページをお願いいたします。

問 6 の結果となります。

回答結果は記載のとおりですが、回答の傾向としまして、他学年との関わりや自分のペースを保てないこと等が悩みに繋がっていることがうかがえました。

アンケートの集計作業をする中で、3 点感じたことをお伝えさせていただければと思います。

まず 1 つ目、3 小学校の内容についてですけれども、仲間と交流できる時間・自由な時間、ゆっくりできる・安心できる場所についての記述は、東部小、西部小、中部小と学校に通っている人数が多くなるほど割合が大きくなっており、学校の規模と比例していることが読み取れました。

問 6 での、悩みや困っていることへの問いに対しまして、周囲の人との関わりは、学校規模に対し西部小の占める割合が大きい結果となりました。

次に2つ目です。中学校の内容です。

学年が上がるにつれ、学習に関する記述、特に、自分のペースで学べる授業への要望の占める割合が大きくなっております。

学習内容の段階や、学習量の増加に伴うものではないかと個人的に感じました。

ゆっくりできる・安心できる場所は、どの学年におきましても一定の回答が見られました。大人数で過ごす中で、自分の居場所を必要としていることがうかがえるような結果となりました。

1年生で、「ルール」の中でも外見についての意見が他学年と比べて多くを占めていました。小学校の「ルール」とのギャップへの戸惑い等の表れではないかと感じました。

最後、3つ目になります。

教育支援センター、スクールサポーター面談実施者についてです。

現在も回答ができていない児童生徒につきましては、先ほども申し上げましたとおり、それぞれのタイミングに応じ、継続して声を聞いている状況でございます。

今回の集計結果を見ますと、周囲の人との関わりへの悩みの占める割合が、3小学校や中学校と比べて低いですが、学習への悩みや要望を訴える声の割合が大きいことが読み取れました。

自分の考えを表現することが苦手な児童生徒にとっては、アンケートでの回答は特になし、わからないという回答になり、日々の雑談やつぶやきの中で声をキャッチしていくことも有効である、大事である、そのように感じました。

今回実施したアンケートの結果につきましては、教育委員会と各学校長、そして教頭先生ともですね、連携を重ねまして、学校としてすぐに対応できること、これらを整理、そして児童生徒へのフィードバックを進めていきたいと思っております。

もちろん保護者に関しても同じように考えております。

また、保護者アンケートにつきましては、現在集計中です。

次回、会議の中で提示するよう、進めております。

本日お越しの方で、保護者の立場からこのアンケートへご意見をいただいた方も多数いらっしゃいます。

まずこの場をお借りして、お礼を申し上げます。ありがとうございました。

以上事務局からの説明となります。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

【資料2】を中心に説明いただきました。

冒頭説明ありましたが、まずはアンケートのお試しとして、東地区児童館の4年5年6年生

9名、ご協力していただきありがとうございますというのを伝えたいと思いますし、また、実施にあたってご協力いただいた関係者の方、とりまとめいただいた事務局の方にも心から感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

では、その点を含めて、4ページ目の中段をご覧いただけたらと思いますけれども、極めて高い回収率を獲得することができたというようなこと。

得られた結果は、すごく大切に扱っていく必要があるなというふうに感じております。

ここで、【資料2-2】、こちら小学校のデータになりますけれども、このデータについて、まずご意見をいただき、その後、中学校、そしてスクールサポーターの先生方にいただいたデータについてということで、3つに分けて皆さんで目くばせを続けていきたいという風に思っております。

まず、【資料2-2】ですけれども、概要等細かなデータは後ほど見ていただければと思いますが、私個人としては、5ページの中段にありますように、自分のペースで自分らしく学んでいきたいというふうな思いや、ゆっくり安心してできる空間や場所を求めているという風な声、また、学校にない方がいいという問4に関しては、人権的といいますか、いじめというふうなことに、非常に反応している子どもたちがいるというふうなことを感じた次第であります。

このあたり、突如振ってしまいますけれども、【A委員】（久保委員）、現場をご覧になって、どのように受け止められたのかの所感などを（伺えたらと）。

こちらのアンケートは、オープンドアスクールのためだけではなく、今後の展開も含めて実施させていただいておりますけれども、まずは、口火を切っていただきたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

【A委員】（久保委員）

お願いします。

まず学習について、自分のペースでゆっくりというのは、先ほどのいじめなどにも関係してくると思いますけれども、学習のあり方というのはもう一度見直したほうがいいなと感じております。

やはり、私も授業を見に行くのですが、教師主導といいますか、何がゴールとなるか、これから何をするのかというところで、（子どもたちが）わからない部分というのが多々あったりして、そういったところに不安を感じながらやっている子どもたちもいるのかなということを今回感じました。

いじめというところにもかかわってくるのですけれど、友達同士のトラブル等もそうですが、私が個人的に自校のアンケートを見ていて気になったというか、なるほどなと思ったのが、先生がみんなの前で怒ることが嫌だというのが自分の中では目につきました。我々の立場からだと、ごく普通にというか、当たり前にそういうことをやっているんですけれども、子どもた

ちから見るとすごく異様と言うか、すごく嫌なものに感じるというのは、私たちと子どもたちの意識の差というところで、やっぱりそこは職員と共有して、気を付けていかないといけないなというのは感じました。

まとまりもない意見ですが、以上です。

【荒井座長】

はい。ありがとうございました。

7ページ目の下の方にある「みんなの前で怒られること」が32名もいますが、まさに教育虐待やマルトリートメントとか、マイクロアグレッションといわれるような、大人からすると無意識の中でやっている行為が、彼らにとって非常に苦しい状況にあるというようなことは、重く受け止めなくてはいけない部分かなということを感じました。

この5ページ目から12ページ目にかけての、小学校のデータをご覧になられて委員の皆様も含め、お感じになられたことなどがあれば、ご発言いただけたらと思いますがいかがでしょうか。

【B委員】（木村委員）

すみません。【B委員】（木村委員）です。

小学校の人間なので、ここで意見を言わないといけないなと思いながら、今マイクをいただいたんですけど、【A委員】（久保委員）がおっしゃったことは、本当によく子どもたちを見ておられるなと思いました。

学校に行っていない子、学校から自分自身を遠ざけている子、みんなにいろんなこと言うけど、ほとんどは大人の問題だということを、大空小学校での9年間で私は学ばせていただいたんですね。

大人が変われば、子どもはみんな来るよって。

じゃあ、大人がどんなふうに変わったらいいかというのは、まさに今、【A委員】（久保委員）がおっしゃった、「指導って一瞬で暴力に変わるんだ」ということを、いかに教員が自覚するかなんです。

子どもは、自分が失敗した、自分が友達を叩いた、自分が友達のものを取った、悪いのは自分っていうのは、指導されなくてもみんな知っているんですよ。わかっている。

悪いのは自分、それはわかっているんです。

わかっているんだけど、先生が自分を指導すると、先生の指導は納得せざるを得ないと。

でも、学校というところは、先生と指導されている子どもの周りに、常に数人の子どもたちがいますよね。この子どもたちが、怒られている子をずっと見ているわけです。

ということは、子どもが自死を選んでしまう大きな原因もここにあると思っているのですが、子どもが先生に怒られていることを周りの友達が見て、こいつは困る子だ、困るんだよ、

あの子いないほうがいいと思ってしまう。

中学校でカンニングをして卑怯者と言われたら、卑怯者、卑怯者とずっと言われ続ける。だったら命を絶った方がマシだって死んでしまった子どもも実際にいるわけですよ。

だから、指導という言葉が教員が捨てない限り、全ての子どもの学びは保証できないなと思います。

じゃあ、指導を捨てたら先生の仕事は何か。

指導したり、怒ったり、教えたりというのが、従前の学校現場で先生の仕事としてそこにあったわけですが、子どもを主語に変えなかったら、今の子どもの残念な状況は、過去最多、過去最多を続けていく。

今回、オープンドアスクールを作る目的は、施設やカリキュラムも大事かもしれませんが、何より大事なのは、教員が変わること、子どもの前にいる大人が変わらなければ、やっぱり変わらないんじゃないかなと思います。

指導を捨てたら何が残るか、大空小学校の時みんな苦しみました。

指導を捨てたら何が残るか、何をしたらよいか考えて、気づいたのは、環境をつくることだったんです。

全ての子どもが、失敗しようと、失敗したらやり直せばいいんだと、学校の中に困る子をつくらないこと。

友達を叩いている子も、「叩くな、謝れ」と言うと、周りは、こいつは悪い子、困る子だと思うけど、叩いている友達に大人が、「大丈夫？何困っているの。私に何かできる？」と大人が声をかけるようになると、周りの子どもたちは、あの子は困っているんだと考え、大人がいないときに叩きそうになったり、暴れそうになったら、「お前大丈夫か？何困っているんだ。俺ら何かできることあるか？」と聞くようになる。

周りが言えば、この子は暴れる必要なくなるし、叩く必要もなくなるわけです。

だからまずは、大人がいかに変わるか。

今、【A委員】(久保委員)がおっしゃったことは絶対に避けられない大きな柱だなと思って聞かせていただきました。

ありがとうございます。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

ほかには、この小学校アンケートデータについていかがでしょうかでは、お願いいたします。

【C委員】(飯澤委員)

はい、【C委員】(飯澤委員)です。よろしくお願いいたします。

まずは、このアンケートの取りまとめ、ありがとうございました。

すごく膨大なデータを、わかりやすくまとめてくださったので、非常に興味深いデータだなと思って見ていました。

私たちは、子どもの居場所づくりを進めていますけれども、そこで子どもたちにどんな居場所がいかを聞いたときに出てくる答えと、ちょうど対応するような内容だったかなと思っています。

学習に関しても、自分の好きなところからまずやりたい、自分のやり方で勉強したい、そういった子どもたち、不登校の子どもたちも居場所に来ています。

また、学校の友達以外の、異年齢の人間関係、異なる学校の子どもたちの人間関係について、この（アンケートの）中でも、子どもたちの交流の時間が欲しいというふうに書いてありましたけれども、授業以外のそういった子どもたちの交流時間が欲しいであるとか。

あと、体験活動ですね。授業以外に、外に出て行きたい、フィールドワークをしたいといった声。

相談できる人が欲しい、安心できる場所が欲しい、やりたいことができる、自分で何をしたらいいか自分で決めるという回答もありますけれども、非常に面白い回答だなと興味深く思っております。

こちらのアンケートを、今後どのように学校に生かしていくのかは非常に難しいところだなと思ってしまして、これから会議の中で検討していければと思います。

貴重なアンケートありがとうございました。

【D委員】（西野委員）

【D委員】（西野委員）です。

全体についてお伺いします。

回答率が大変高いんですが、実際に不登校カウントされている長期欠席の子どもたちの回答率というのは、どれぐらいになるのかというデータはあるのでしょうか。

学校に来ていない子供たちには個別に対応されているのかなとは思ったんですが、実際に今、学校に來れない状況にある子どもたちはどれぐらい回答しているかというのは、データとしてあるのか知りたいなと思いました。

【荒井座長】

はい。ありがとうございました。

では、21 ページのデータとの関係も含めて、事務局の方からお答えいただけたらと思いますけれども、いかがでしょうか。

【金井軽井沢高校・教育魅力化推進係長】

はい。お答えします。

まず、現在の相談件数としての合計が 340 名です。

このうち、学校での不登校調査に名前が挙がっている児童が 60 名というのが事務局で押さえている数字です。

【荒井座長】

はい、ありがとうございます。

今のようなことになると、21 ページのデータは 60 分の 6 が、現在聞き取りすることができているというふうに、理解すればよろしいですか。

【小林スクールサポーター】

今、金井の方が申し上げた人数は、令和 6 年度末調査時の人数になります。

このアンケートをとったのが 6 月になりますので、今申し上げた人数と、実際の不登校者数の人数はデータとして合っておりません。

また、現在も不登校児童生徒へのアンケートは続けており、こちらでの聞き取りを継続していますので、5 月で切るのか、6 月の不登校数で行くのかということも含めて、今後調整をかけていければという風に考えております。

以上でお答えになっていますでしょうか。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

ということですので、この 21 ページ目、今は小学生 6 人、中学生 6 人から回答を得ているわけですが、ここの数が今後増えていくという理解でよろしいですか。

【小林スクールサポーター】

はい。

増えていくということと、このときの不登校調査数の母数をしっかりと見極めていくということになっていくと思います。

【D 委員】（西野委員）

ということは、なかなか難しいですね。

学校のことをいろいろ聞いていて、本人の嫌なことはやらないに越したことはないので、アンケートに答えやすい環境の中で協力してもらえることをどれぐらい拾えるかということなのかなと思うんです。

実際に学校へ行っている子たちの声というのも、大変興味深いデータが出てきたのでよかったと思う一方で、今はもう実際に学校に行けなくなってる状況にある子たちの本音がどれぐらい聞き出せるのかということに大変関心のあるところなので、不登校の親の会の協力とか、可能な形で学校に行きづらい子たちの本音が伝わってくるような取り方ができたらいいなと思

っています。

引き続き、何とかそういう声を有効に聞けたらいいなと思いました。

ありがとうございます。

【荒井座長】

はい。ありがとうございました。

【宮本教育長】

補足ですけれども、このアンケートは、学校へ来ている子にはもちろん取っているんですけど、アンケート実施日は来れたという不登校の子たちもいまして、それが誰かということはわからないので、不登校傾向の子で今小学生6人と中学生6人いますけれども、実際のアンケートに答えている・かぶっているという子もいます。

それと、ワークショップのところで話ししますが、不登校の子どもたちに関しては、今後また別の機会をとっています。

【荒井座長】

はい。ありがとうございました。

補足説明というふうなことで、量的な部分と質的な部分、両方このあとご説明いただけるのではないかなと思っています。

小学校の部分についてはよろしいでしょうか。

では続きまして、【資料2－3】13ページ目以降をご覧くださいと思います。

唯一の軽井沢中学校のアンケート結果ですけれども、こちらでもかなりいろいろなご意見をいただいていて、とりわけ私の目を引いたのは、学校にない方がいいなと思うところ、16ページ目のところで、外見について、服装や校則関係の部分がかなり出てきているのではないかなというふうに思っております。

このあたり、全国では中学校を中心に、あるいは高校を中心に、校則についても問い直すというようなことも行われておりますけれども、実際に現場で対応していただいている【E委員】（山崎委員）から、実際校内ではこういった校則を中心とした取り組み等の動きがすでにあるのかないのかとかも含めて、少し受け止め方をお聞かせいただけたらと思います。

【E委員】（山崎委員）

よろしく願いいたします。

まず、服装の件につきましては、昨年来から、例えば登下校のジャージの着用についてとか、それから授業時のジャージの着用について、子どもたち、具体的には校風委員会にいろいろ意見を集約してもらって、多く変更してきた点があるかなというふうに思います。

またあわせて、今、創立から10年経ったということで、制服の見直しも含めた制服検討委

員会っていうのをPTA、生徒、そして学校とで立ち上げて話をしているところでございます。

今、いろいろと選べる時代かなというふうに思いますので、今あるものをやめるっていうことではなく、今あるものも含めて子どもたちの選択の幅を広げたいという思いもある一方で、人と違うということが逆にかえって負担になるという子も一方ではいますので、慎重に考えていかななくてはいけないかなというふうに思います。

それから、やはりピアスを開けるとか、化粧をしてくるということは、どうしても今、なかなかこういちごっことか、生徒と話しながら、うまく話を進めているところですが、これについても今後丁寧に子どもと聞き取りをしながら進めていかなければいけないなと思っています。

できれば、ルールというものはあまりなく、簡素化したものがないというふうに自分では思うんですけども、あまり自由にしてしまってもというような思いも一方であるということでございます。

また後ほど、ワークショップのところで少しお話しできればと思います。

よろしくお願いします。以上です。

【荒井座長】

はい。ありがとうございました。

では他の委員の皆さん、中学校のデータをご覧になられていかがでしょうか。

【F委員】（西郷委員）

オープンドアスクールの話なので、今ある既存の公立学校の批判はしたくないんですけども、今ある学校のようなオープンドアスクールは作ってほしくないなと思います。でなければ、今不登校の子が来れるわけがない。

申し訳ないが、【E委員】（山崎委員）のようなご発言をする校長先生のつくる学校のような学校は作って欲しくない。

ルール・校則も、まずゼロベースで、校則はありませんというところからスタートしないと、もう駄目です。学校自体が変わらない。

まずは校則が何もないところから始めて、これだけはルールとして作って欲しいというところから始まらない限り、変わらない、また既存の学校と同じようなオープンドアスクールができてしまうと思います。

例えば、ちょっと戻りますが、小学校のアンケートで、みんなの前で叱る（という回答があったが）、これを管理職が教員にやったらパワハラですよ。

学校の校長がやっていけないことを教員がやっていて、なんでそれが未だに残っているんですか。

そんな議論をしていたら、絶対変わらないですよ。

だからここは、座長を含めて、勇気ある決断をして、まず全てゼロから作って欲しいなど。でなければ、こんな議論をいくらしていても、今不登校である子どもたちが通えるような学校はできないと思います。

それだけです。以上です。

【B 委員】（木村委員）

同感です。

今、【F 委員】（西郷委員）がおっしゃったようなところを、みんなで対話しながら深めていけない限り、こういう対話がポンッとでて、【F 委員】（西郷委員）はそう言うよねというだけで終わってしまったら、目的がぶれていくと思うんですね。

さっき、現場の中学校の校長が、校則の見直しをどうするか、こんなのみんな OK にしたらむちゃくちゃになるんじゃないかと言っていたが、全国どこの校長先生たちからも、結構こういう相談いっぱい受けます。

校則をなくしたら、子どもたちがむちゃくちゃになるんじゃないかと思っている現場のリーダーは、子どものことを信用してないわけじゃないですか。

ちょっときつくなりますが、【E 委員】（山崎委員）がじゃなく、全国を捉えながら想像していただきたいんですが、「校長が俺らのことを信用していないのに、なんで俺らが校長を信用するのか」という子どもの声がいっぱい聞こえてくるわけです。

だから、校則の是非とか、ピアスをつけていいのかつけたらいけないのかとか、その校則の是非をどれだけ議論しても、子どもは育たないと思うんです。

校則って、大昔から子どもを管理するための単なる手段なんです。

誰が管理するのか。大人が、教員が。

だから、校則がなくなったら管理できなくなるから困る。

風越学園に今日みんなで行ってきましたが、【G 委員】（本城委員）は今思っていることがあるのではないですか。どうですか。

【G 委員】（本城委員）

そうですね、風越学園は校則がないかたちで小学校と中学校、義務教育学校をやっていますが、でも、大人も子どもも正直困らないです。

ピアスを開けていても授業を真剣に聞く子は聞くし、ピアスを開けてなくても、聞かない子は聞かない。

でも、聞かないけど学校には来る、学校で過ごすというようなことはできていると。

何を大切にしたいのかというふうなことで、どんな社会をつくりたいのかということと一致していますけれども、本当に大人がどれだけ子どもを信頼するという覚悟を決められるのかということが大事な点と。

本当に制服がなくても、校則がなくても、全く何も困らないというか、学びには全く何の支障もないだろうというふうに思います。

ただ、今あるものをなくすということは、かなりショックを伴うことで、大人も子どももびっくりして、次にどうしたらいいかわからなくなることはあるので、そこは、こういうようなショックが起きるんじゃないかというようなことを想定しながらかなくすということが大事だろうなというふうには思います。

もし、オープンドアスクールが分校というふうな形態をとるのであれば、分校の方・オープンドアスクールには校則がない、制服がない、給食がないということになると、分校が良くて、何でもこっちは駄目なのというふうに子どもたちからきつ意見が出てきて、子どもたちから、本校という言い方が正しいかどうかわかりませんが、本校の方も試してみようというような動きがきつ出てくるだろうなと思っているので、そのことは想定してやっていく、もしくは本校から校則をなくしていくということをやってみてもいいのかなと思います。

以上です。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

まさに、今の趣旨のためにこのアンケートを実施しているということもニュアンスとしてはあることをご承知おきいただければと思います。

他には、中学校部分を中心にいかがでしょうか。

【H委員】（岡田委員）

先ほど【B委員】（木村委員）から、指導ということについてお話があったと思いますが、生徒指導の「指導」というのをやめたらどうかと考えています。

私自身、昭和 60 年代の校内暴力が吹き荒れているときから現場の教師をやっていて、生徒指導の係もずっとやってきました。

疑問を抱きながらもやってきました。

力による指導というのを、残念ながら私もやってきた経験があります。

でも今の子どもたちを見ていると、やはりその力による指導では通用しない子どもたちがずいぶん増えてきたということを今感じています。

学校では、どのように子どもたちを、支援していくのかという視点も必要ではないかなと思います。

今、【G委員】(本城委員)がおっしゃったように、すぐに変えることができないのであれば、まず学びの多様化学校の実践から学ぶということもしていいのではないかなと思います。

先ほど、風越学園の見学をさせていただいて、本当に素晴らしい学校だなと感じました。

公立学校としてどこまでできるかということもありますが、やはり目指すべき一つの姿ではないかなということも感じました。

全国には、いろんな実践をやっている学校があるので、その辺も参考にしながら、公立小中学校も、学びの多様化学校も、夜間中学も、オープンドアスクールとして創り上げていかなければならないのではないかなと思います。

これから楽しみです。

【荒井座長】

はい。ありがとうございました。

では、中学校のところはよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

では続きまして、21 ページ以降になりますけれども、今回ですね、スクールサポートのスタッフの方に尽力いただいて、現時点でのデータが小学生6名、中学生6名から聞き取りができたということでご報告いただきました。

この点に関して、皆さん、お気づきの点やご質問等いかがでしょうか。

これは小林さんが聞き取っていただいたという理解でよろしいですか。

【小林スクールサポーター】

教育支援センターの方に来ることができる児童生徒については、こちらの堀本の方で聞き取りをしてもらっておりまして、それ以外のお子さんに関しては、面接を通してお願いしていたり、学校に来たタイミングで取っておいて欲しいということで先生にお願いをして取っているというケースです。

このときよりもまだ数件増えている状況です。

またお示しできるようにまとめてまいります。

【荒井座長】

ありがとうございました。

23 ページ目の下から2番目に、多様な学びの学校と普通の中学の両方通える（行き来）できるようにしてほしいとありますが、このあたりのニュアンスについてもう少しお伺いしたい

なと思いましたけれども、もしお応えできるようでしたらお願いしたいのですがどうでしょうか。

【小林スクールサポーター】

これについては、教育支援センターに今通っているお子さんの回答です。

今、教育支援センターに通っているお子さんたちで、全く学校に通えてないお子さんはいなくて、皆さんハイブリッドで行き来をしているという状況です。

おそらくそのイメージでの回答になっているのではないかなと推察されます。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

他に皆さんいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

●（３）「私たちの学校」をつくるワークショップについて

【荒井座長】

では、今の量的なデータの結果を含めまして、続いて【資料３－１】をご覧くださいと思います。

「私たちの学校」をつくるワークショップについてということで、事務局の方からこの間の取り組みについてご報告お願いいたします。

【根津軽井沢高校・教育魅力化推進係員】

はい。お願いします。

事務局の根津です。着座のまま失礼いたします。

【資料３－１】「私たちの学校」をつくるワークショップについてでございますけれども、まず町内の３小学校および軽井沢中学校では、先ほどご説明しました「私たちの学校」をつくるアンケートの結果をもとに、１学期中にワークショップを実施いたしました。あるいは今後実施予定です。

また、学校外では、７月８日に下記の※印でお示した対象者向けワークショップを実施いたしました。

また、９月２２日には、町民と町外者向けにフォーラム＆ワークショップを実施予定でございます。

こちらについては、会議の終盤で改めて説明させていただきます。

では、ここからは【資料３－１】で★印がついております上記６月２５日、７月８日に実施しましたワークショップの詳細を説明させていただきます。

まず、２６ページ【資料３－２】をご覧ください。

こちらが６月２５日に軽井沢中学校で実施いたしましたワークショップ当日に、全校放送で示した内容となります。

２６ページから２８ページにかけて冒頭で、ワークショップのテーマや意見共有の手順等を説明いたしました。

また、最後２９ページのところが振り返りで使ったスライドになります。

続いて３０ページをご覧ください。

【資料３－３】ということで、軽井沢中学校でのワークショップの結果報告をさせていただきます。

１．実施概要につきまして（１）（２）実施日と実施方法については、資料をご覧ください。

（３）テーマに関してですけれども、今回アンケートの間３から間６に答える上で、「あな

たをふくめて、だれもが自分らしく、まわりの人と学びあう学校であるためには、どうしたらいいか」の質問ですという文章がありましたが、その部分を大切にしたいワークショップにしたいと考え、話し合いのゴールを、「あなたをふくめて、だれもが自分らしく、まわりの人と学びあう学校であるためには、どうしたらいいだろう？」とし、話し合いのテーマについては、「そのために、授業に注目してグループごとにアイディアを出そう」というふうに設定をいたしました。

今回、この第1回目(のワークショップ)で、授業というテーマを選定した理由については、27 ページでもお示ししておりますように、今回のアンケートの中学校の結果で第1位になったためです。

次回以降のワークショップでは、同じようにアンケート結果の上位にあった、例えば「行事」ですとか「空間」などからテーマを選定する予定であります。

(4) 進行方法については、ご覧ください。

2. 意見の概要ということで30 ページの真ん中ほどにございますけれども、(1)では全体の意見の傾向、(2)では学年別に少し意見の傾向が見られましたので、1 学年から3 学年まで、それぞれの傾向を簡単にですが載せさせていただいております。

その他の意見については、現在取りまとめをしているところです。

先ほどのアンケートのところでもお話させていただきましたが、今後、各小中学校で複数回ワークショップを実施していく中では、児童生徒の皆さんへのアンケート結果やワークショップで出された意見の共有を行うとともに、その内容を踏まえて、教育委員会と各学校で今後取り組む内容について協議していく予定であります。

それでは、続けて31 ページをご覧ください。

こちらは7月8日に実施したワークショップの概要となります。

1. 実施概要 (1) 実施日についてですけれども7月8日の(火)、時間は夜の6時半から8時頃に行いました。

(2) 参加者でございますが、参加していただいた児童生徒の皆さんのうち、児童の皆さんが2名、生徒が1名という結果になりました。

また、保護者の方、それから児童生徒の皆さん参加者のうち、事前申し込みをして参加された方が全体の3分の1ほど、残りが当日参加してくださった方でした。

(3) 実施方法のところで、2 グループに分けてテーマに沿って話し合いを実施。出た意見をファシリテーターが集約とありますが、各グループのファシリテーターは、先ほどもお話をさせていただきましたスクールサポーター、それから学校関係者の方で務めさせていただきました

した。

続けて（４）進行方法、それから（５）テーマに関する部分ですけれども、（４）進行方法のところで、当初３つのテーマを準備したというふうにあります。このテーマについては、事前申し込みをしていただいた方からお寄せいただいたテーマと事務局で想定しておいたテーマ等がありました。

しかし、結果としては、自己紹介後それぞれのグループから出された意見や質問というのが、事務局が想定していました「今ある学校や軽井沢オープンドアスクール（仮称）に求めること（こんな学校だったら通いたい、通いやすい）」という意見がたくさん出されましたので、結果的にはその内容のみで話し合いを行いました。

２．意見の概要の部分についてですけれども、（１）では全体の意見の傾向として、自分のお子さんが抱える生きにくさ、学校への行きにくさの原因であったり、実際のお子さんが感じている困り感等についての共有共感がありました。

また、実際のお子さんから、こんな学校こんな制度があったらいいなという要望や希望についても寄せられました。

もう少し詳しく見ていきますと、例えば制度的にオンライン通学、メタバースの学校、別室で授業を受けられる環境の整備、それからボランティアの活用、中学校に進学した際の先生の対応が変わったことに対応できなかったという意見等が寄せられております。

その他の意見や感想等については現在取りまとめをしているところです。

今回この７月８日のワークショップの対象となった児童生徒の皆さん、それから保護者の皆さんの意見をより取り入れるにはどのようにしたらいいかということについて、いただいたご意見をもとに、実施方法等を検討しまして、今後ワークショップを実施していきたいと考えております。

改めて、今回ワークショップを実施する中で、軽井沢オープンドアスクール（仮称）への皆様の期待、それから願いというのを肌で感じることができました。

今後、「私たちの学校」をつくっていくということに向けて、より児童生徒の皆さん、保護者や地域の皆様と手を取り合っていければなということを感じております。

以上で、「私たちの学校」をつくるワークショップについて説明を終わります。

【荒井座長】

はい。ありがとうございました。

25 ページにお戻りいただけたらと思います。

現時点で、軽井沢中学校の生徒を対象としたもの、また、７月８日には別のものを実施されたということで、まずは【E 委員】（山崎委員）の方から、所感といいますか、受け止め、お聞きできればと思います。いかがでしょうか。

【E 委員】（山崎委員）

お願いいたします。

時間的には 30 分程度という非常に短い時間の中でしたが、私が感じていた以上に、子どもたちがこのことについて前向きに捉えて、様々な角度から意見を出してくれたことは非常に嬉しかったです。

今回出された意見につきましては、教員もこのことを踏まえてしっかりと討議をしつつ、子どもたちの方にはフィードバックし、保護者にもフィードバックしていける、そんなふうにながら「私たちの学校」「みんなの学校」を作っていけたらいいなというふうに思っております。

具体的には、例えば、自分に合った学びをしたいということについて、このワークショップの前に教務会の中で話題にさせていただきました。

研究主任の方から、今まで夏休み帳という教師が与えた課題があつて、それをやるという形式が今までずっとあったわけですが、そういう学びをやめましょうと。子どもたちが自分で自分の学びたいことを学べる、そんなことができたらいいいんじゃないかということで、自主学習という形を今年から始めてみました。

ただ、子どもたちに全てを委ねるだけではなくて、何か学べる教材をとということで、そういうものについても研究主任の方で用意してくれました。

うまくいくかどうかわからないんですけれども、とにかくやってみなければわからないので、動き出してみたい、そんな動きが教師の中にも少しずつ芽生えているとていうようなことがありましたので、ご報告させていただきます。

以上です。

【荒井座長】

はい。ありがとうございました。

ぜひ、子どもたちへのフィードバックであつたり、教職員を対象としたワークショップなども、我々が関わりながらやってみるというのも一案かなというふうに感じました。

続きまして、【I 委員】（諸星委員）は 7 月 8 日に行われたワークショップの労を取っていただいたというふうなことを伺っております。

感じられたことなどをお聞かせいただけますでしょうか。

【I 委員】（諸星委員）

私、7 月 8 日のワークショップにさせていただいたんですけど、やはり思ったとおり、お子様の参加が少なかったです。

初めての場所で、初めての人が多く、わからない環境になかなか来れないというのは当たり前のことなので、そこはやっぱり改善点かなというのはすごい思いました。

また、少し気になったのは、中学2年生の男の子が意見を言うてくださったんですけど、やはり大勢の保護者の中ですごい勇気を出して言うてくれたんだろうなというのは実感していて、もう少し配慮してあげればよかったな、もう少し他の場所に連れて行って個別に聞き出してあげればよかったなというのはすごい後々感じています。

あと、自分の家に帰って子どもと話したときに、「うちの子は」という保護者の意見はあるんですけど、その保護者の意見が必ずしも子どもの意見とは一致しないなというのを改めて実感したので、やはり子どもからの聞き取りをどうにかできる方法を探りたいなと思います。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

今、今後の改善点というのをたくさんご提案いただいたので、事務局の方でもぜひそれを引き受けながら、次の回、まだ今後複数回実施できるということで検討いただけたらと思います。

では、委員の皆様方から「私たちの学校」をつくるワークショップについての部分でご意見等あればと思いますけれどもいかがでしょうか。

【J委員】（上原委員）

【J委員】（上原委員）です。

9月22日にまた大きなフォーラム&ワークショップが予定されておりますけれども、本校には、軽井沢中学時代に学校に行けなかったが、高校に入って立ち直って頑張っている生徒も多々おります。

そういった生徒も混ぜていただきまして、ぜひそんな意見を聴取していただけると幸いです。

ご検討ください。以上です。

【荒井座長】

はい、ありがとうございます。

貴重なご意見、ご提案をありがとうございます。

ぜひ事務局の方でも前向きにご検討いただければと思います。

他にはいかがでしょうか。

【F委員】（西郷委員）

7月8日のワークショップについて、当事者の生徒が出席しにくいと。

そのとおりだと思います。

こういう形式でのワークショップで、実態を把握するのはなかなか難しい。

要は心理的安全性をどうやって保つか、会場設定するかということで、特設会ではなかなか難しく、現場の、学校の中などでワークショップを作っていないと、なかなか当事者の意見の吸い上げっていうのは難しいです。

僕が意見の概要の中で注目したのは、生きていく生きにくさ、学校へ行けない行きにくさの原因について子どもたちが意見を言えたということです。

生きることの生きにくさの裏には発達特性があったり、家庭の状況があったりしますが、我々は原因を取り除くことができない。

例えば発達に特性のある子の特性を取り除くことはできないけれども、そういう子でも通える環境はつくることのできるので、できるだけ要員を集めて、どうしたらそういう子が通える環境になるのかということで、オープンドアスクールの環境を考えていきましょう。

例えば、僕のいた桜丘中学校は遅刻をとらないんです。

それは、遅刻をとると言う学校に来れなくなってしまう子どもがいるんです。起立性調節障害だけではなくて、ADHD の子も、遅刻を取られるくらいなら休んでしまうんです。

そうであれば、学校全体として遅刻をとらない環境を作ればいいですよ。ほとんどの子がちゃんと来ますよ。

でも、まったく学校に来ないより、10 時になっても 11 時になっても学校に来ればいいんじゃないかと。

そういうような発想の転換が必要です。

オープンドアスクールには来てほしいのであれば、従来のそういうのは関係ないようなものも必要かと。

ちょっと話飛びますけれども、学校に来れない原因を本人に求めるのではなくて、環境に原因があるという視点で考えていかないといけないなと思います。

1 人だけ長くなってしまうので、これくらいにしておきますけれども、このワークショップの結果を見て、そのように感じました。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

では続けて、【G 委員】（本城委員）をお願いします。

【G 委員】（本城委員）

今、環境というお話が出ましたけれども、これからオープンドアスクールが軽井沢町の中のどこかに設置されたときに、椅子をどうするかとか、机をどうするかとか、照明をどうするかとかいうふうなことになると思うんですけども、そのときにやはり、子どもたちが前の学校とは違うと思える、例えば、アンケートに寝る場所が欲しいとありましたが、ソファがあって

寝る場所があるだとか、机と椅子が並んでないとか、ここ（会議の会場）もそうですが照明が少し赤いとか、靴をどうするかとか、ほんとに細かな環境設定が大事で、そういった部分を練っていかないと、なんかまた前の学校と同じだという「がっかり」を生んでしまい、オープンドアスクールにさえ子どもは来なくなる。

先生という存在がまたどういうふうになっていくのかというのも環境の一つだと思いますし、先ほどおっしゃったように遅刻がないとか、そういったことを一つ一つ丁寧に設計していく必要があるだろうなというふうに思います。

以上です。

【荒井座長】

はい、ありがとうございます。

では、【D委員】（西野委員）お願いします。

【D委員】（西野委員）

さきほど、【F委員】（西郷委員）が心理的安全性という話をされて、軽井沢の状況がわからないんですが、軽井沢に民間の居場所とかフリースクールはないんでしょうか。

心理的安全性を考えると、学校に行きづらい子どもたちが行っている民間の居場所やフリースクールみたいなところに行ったり、県内に範囲を広げてもいいのかもしれませんが、そこで軽井沢オープンドアスクール（仮称）を開くにあたって皆さんの意見を聞くような、そういうワークショップがあるといいのかなと思います。

もう一点は、先ほど、根本的にすごく大事なことがここで出ていたと思います。

そもそも指導をやめたらどうかという、かなり今、根幹に関わるような定義がこちら側の委員から複数出てきて、そして遅刻の問題も出てきていて、このオープンドアスクールは既に、開校予定まで見えてしまっているんで、簡単なことじゃないことは100も承知ですが、そこに関わる学校教員向けのワークショップが何よりも大事なんじゃないかと思います。

その教員集団は、どんな思いで、何を大事に、どのように子どもを信じたオープンドアスクールを作るのかという、その議論がとことんなされないと、やっぱり通り一遍の形で、時期が来たのでオープンドアスクールを開校しますって言っちゃっても、それこそ、校長先生や教員が異動したら終わっちゃうというものになってしまう。

そうではなくて、確かオープンドアスクールを作ったら、軽井沢町の学校の先生が何度も研修に回ってくるような記憶があったが、最初に作る学校が、どんな思いで、何を大事にするのかという議論が尽くされないと、根本が崩れるのではないかと思います。

ほんとは、大事なワークショップというのは、子どもの声を聞くのも大事だけど、先生の合意形成というか、事務局任せな発言かもしれないが、やはりそこをやらないと駄目なんじゃない

いかと思います。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

では、【K委員】（三和委員）からお願いいたします。

【K委員】（三和委員）

まず、ワークショップについてですが、僕は普段メタバースなどの活動をしていて、そこで実施しても面白いかなと思っていて、SaSaLAND でメタバースを活用した活動をしていると、やはり施設にいる姿とオンライン上にいる姿というのは全然違ったりもするので、そういうふうな環境でワークショップをするのも面白いかなと思いながら聞いていました。

もし可能であれば、お手伝いしますので、ご検討いただけたらと思います。

以上です。

【荒井座長】

はい。ありがとうございました。

ぜひ実現しましょう。

では、【L委員】（福本委員）お願いします。

【L委員】（福本委員）

生きづらさを自分で抱えている子どもたちが、その原因を俯瞰してみるという非常に難しいことを、すごく勇気を持ってやってくれたんだろうなというところを、話を聞いていて思いました。

多分大人でも、オープンクエスチョンで質問されたら、どこから何について話したらいいのかわからないもので、それが体調のことなのか、感情のことなのか、人間関係のことなのか、家庭のことなのか、そこが割とこじれてしまって、それが言えないから説明できないんだと思っている子どもたちにとっては、オープンクエスチョンで、しかもワークショップっていうどんなことするんだろうという馴染みのないものに対して勇気をもっていくって、すごくハードルが高いことだったのではないかと思います。

そういう意味では、オープンクエスチョンではなくて、まずは場所をどこにするのか、その子にとって心理的な安全性が高い場所、人数ってどういうところなのかということを踏まえた上で、まず選択肢とかカテゴリーの中でどれぐらいしんどいのかということをまず数値化するとか、そういうことがあれば自分自身をもう一度振り返って、頭の整理ができるのではないかと思います。

参加したことで子どもにとっても、「ここに来たから、自分が、何がつらかったのかを知れて、それを今回一緒に解決してくれて、具体的にほどこいてくれようとする人たちがここにはい

るんだ」という安心感を持ち帰れるような、そういう場を設計してあげられることが、今回のことを踏まえてできるんじゃないかというふうに思いました。

先ほどの議論で、指導の話もあるんですけども、何か私がすごく根底に思うのは、同じ人として、持っている感覚も感情も特性も全く違うという前提で学校づくりを始めてみるということがない限り、多分自分のフィルターを大人自身も全く認識ができないままかなと。

先ほど【G委員】（本城委員）もおっしゃっていましたが、明かり自体が眩しいのか眩しくないのか、音が気持ち悪いのか気持ち悪くないのかとか、感覚のことだから、人と自分を比べることができないんですよね。

だから、具体的な環境に行って、ソファがあるところで1人でいるとすっきりする子もいれば、外に行ってこういう開放的な山に行ったときに開放される子もいれば、具体的な場で身を置くと、初めて感覚の違いが、自分の中にもグラデーションがあることを知り、なおかつ自分と他人というものを、初めて比べてみたときにその違いがわかるっていうぐらい、とても無意識的なもので苦しんでいる子どもたちが多いんじゃないかなと思うんです。

なので、そういう具体的な場面に身を置きながら、どういうところがいいんだろうかっていうことを確かめていきながら、心地よい環境でみんながチャレンジできるってどういうことなのか、それを不登校の子どもたちは特に敏感に感じとっているけれども、先ほどのアンケートでも、やはり自分のペースで学びたい、ゆっくりと安心できる場で学びたいっていうのは、普通に学校行っている子たちにも同じように意見として上がっていたことなんで、その辺の、自分の感覚というものを知っていくような機会というものがそもそもあると、人はそれぞれ持っている器官とか、感覚っていうのが違うから、違うことからスタートしようと。そうすると、違う子とどうやって一緒にいられるんだろうというところからの対話に変わっていくんじゃないかなというふうにも感じたところです。

【荒井座長】

ありがとうございました。

参考までに、先ほど【D委員】（西野委員）から質問がありましたけれども、軽井沢町内での居場所、あるいはスリースクール等、そのあたりの情報があればお答えいただけたらと思います。お願いします。

【小林スクールサポーター】

はい、お答えします。

軽井沢町には今、教育支援センターという形で、町が行っている施設が1つあるだけです。町内には。

町内から、他市町村の支援センター、もしくは民間のところに通っているお子さんは昨年度の状況だと3名です。

町の教育支援センターも、6月末で14名の利用となっています。

【荒井座長】

はい。ありがとうございました。

フリースクールが、どの程度皆さんに認知されているかというのもあると思いますけれども、現状ですと、軽井沢町内にはないという話です。

ただ、例えば、お隣の御代田町にはフリースクールがありまして、軽井沢のお子さんが通われているということです。こういうふうな状況だということです。ありがとうございました。

【M委員】（岩崎委員）

私、【L委員】（福本委員）さんがおっしゃったことにとても共感していきまして、国際多文化教育を進めている中で、いつも気づきというものから始めていくんです。

皆さんが全部違うというところから始まって、その中であんまり関係のないゲームをするんですね。

その関係のないゲームの中で、自分たちがどう考えて、どう違うかという気づきから始まるんですけども、そういうゲームを何度かやっているうちに、子どもたちの方から本音が出てきたり、信頼関係というものも出てきたり、トラストリレーションシップゲームっていうのもあるんですけども、そういったものも含めながらワークショップをした方がいいんじゃないのかなと思いました。

こちらの方に写真が出てたんですけども、既存の教室みたいで、【I委員】（諸星委員）がおっしゃったように、中学生が頑張って意見を言ったっていうのは相当の勇気だったんじゃないかと思います。

もう少し、何かカーペットの上にクッションを置いて、ざっくばらんに話すとか、ちっちゃなグループを作って、それぞれでいろんなゲームをしながら、なじみながら、どうやって自分たちは考え方を表現できるか、ちゃんと人に言えるのかというのをやって、しかも1回だけじゃなくて、何度もしないとその子たちの本音というのは出てこないんじゃないかと思います。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

まさに場づくりの議論だと思います。

【小林スクールサポーター】

今の【L委員】（福本委員）や【M委員】（岩崎委員）の発言に関してなんですけれども、8月以降にも、今度は子どもだけのワークショップというのを何回か繰り返していく予定で、今スケジュールや内容を検討しているところです。

その際には、町内にあります教育支援センター、それこそじゅうたんが引いてあって、ソファがあって、テントがあってとか、自由な環境があるところで、ハイブリッドで通っているお子さんもいるし、初めてそういう機会に教育センターに来れるお子さんもいると思うので、

そういった場を設けて、今後もこういったお子さんの気持ちとか、考えていることっていうのを聞き取っていったらいいなというふうに、継続して考えていきたいと思います。

【荒井座長】

はい。ありがとうございました。

軽井沢町の教育支援センターは、多分皆様がイメージされている教育支援センターの空間とは少し違う形になっていますので、そこはバイアスなしでご覧いただける機会をと思います。

今、何となくその空気感を感じましたので、違うということをお伝えさせていただきます。新設したのはいつだったのでしょうか。

【小林スクールサポーター】

昨年10月に、新たに建築された建物になっておりまして、目の前に神社の公園があったり、犬の散歩の方が寄ってくださったりとか、とても地域の方との交流がある、そういったオープンなスペースとなっています。

ぜひ機会がありましたら、見学にいらしていただければと思います。

【荒井座長】

まさに、行政施設というよりは、戸建住宅というふうな感じですので、ご覧いただけたらと思います。私もお邪魔しましたけれど、ぜひ皆さんもというふうに思います。

ちょっと時間押してしまいまして申し訳ありません。

このワークショップについては、今後も行われるということで、引き続きになりますので、また皆さんご意見をお寄せいただき、また場づくりについてもいろいろな方法を用いて実施できればと思いますし、もしよろしければぜひ委員の皆様も関わってくださればと思います。

よろしく願いいたします。

●（４）夜間中学について

【荒井座長】

それでは次第を次に進めさせてください。

（４）夜間中学についてということで、【資料４】を中心に、事務局から説明をお願いします。

【根津軽井沢高校・教育魅力化推進係員】

はい、お願いします。

まず 32 ページの【資料４－１】になります。

前回の第２回設置準備会議では、夜間中学に関して多くのご質問・ご意見をいただきありがとうございました。

【資料４－１】のタイトルをご覧いただきたいのですが、皆様からいただいたご意見等を踏まえまして、第２回設置準備会議で「夜間中学設置に向けたニーズ調査について」という形で提案させていただいたものを、『軽井沢オープンスクール（仮称）における「夜間中学」設置に向けた広報について』という形で再度提案させていただきます。

前回の設置準備会議で用いていた「ニーズ調査」という名称については、ニーズは確実にあるという前提に立つため使用せず、代わりに広報という呼称を用いております。

この広報の中に、夜間中学の周知や入学に向けた調査が含まれますし、軽井沢オープンスクールそのものの周知についても、今後徹底していきたいと思っています。

今、お話しした修正点を含め、第２回設置準備会議でいただいたご意見やご質問に対する事務局の対応を 39 ページ以降の【資料４－２】にまとめました。

こちらのいただいたご意見・質問に対する事務局の対応ですが、基本的にいただいたご意見は今後の対応に反映させていただいておりますが、それ以外のものや、特にご説明したい点のみお話させていただきます。

では、39 ページの内容につきましては、説明を割愛させていただきまして、続く 40 ページをご覧ください。

40 ページ、その他のスクールコンセプトの部分をご覧いただきたいと思います。

夜間中学への現役中学生の受け入れについてご意見をいただきました。

また関連して、夜間に異年齢の生徒と学ぶ機会として、夜間中学の利用を検討できるような質問項目がアンケートにあるというのではないかとのご意見もいただきました。

オープンスクールそのものが、多様な方が集いともに学ぶインクルーシブでフレキシブルな学びの場を想定しておりますが、現役中学生の受け入れに関して制度上の課題もあります。

そのため、どのような学校としていくのがよいか、現役中学生をどのように受け入れていく

のが良いかということに関して、今後の設置準備会議で皆様から、ぜひ、ご意見を伺いたいと思います。

また、夜間中学の利用の検討について、質問項目としては直接は設けませんけれども、先ほどからもお話がありました、当事者である児童生徒の皆さん、保護者の皆様向けのワークショップや、広くこの地域の方にアンケートでご意見を伺うことで、そのようなニーズがあるかについては把握していきたいと考えております。

またその下の、全体に関しての部分をご覧ください。

3つ目にオンライン学習のニーズということで、こちらが知れると良いというご意見をいただきました。

こちらについては、アンケートに自由記述欄を設けることで希望があればその部分に書いていただけるようにしたいと考えております。

また、先ほどからも話題がありましたメタバース等活動空間やオンラインでの学びの場作りについても、今後の設置準備会議で検討していただきたいというふうに考えております。

言語についても、教える際の言語が最初の壁になるので、事前に検討が必要であるというご意見もいただいております。

こちらについては、先進事例の取り組みを参考に今後検討していきたいと考えております。

以上で、【資料4-2】についての説明を終わりにいたします。

恐れ入りますが、再度ページを32ページまでお戻しいただきまして、改めてこちらの【資料4-1】の内容について説明をさせていただきます。

1. 概要についてですが、前回からの変更があった部分を赤字にさせていただきます。その部分を中心に説明をさせていただきます。

まず、(1)趣旨の部分については先ほどもお伝えいたしました、ニーズ調査ではなく広報という形で位置づけをいたしました。

また、この結果については、夜間中学だけでなく、夜間中学を含めた軽井沢オーブンドアスクールのあり方の参考としていきたいと考えています。

(2)対象の①公立夜間中学のニーズがあると想定される方の部分についてですが、上から3つ目の、「中学校を卒業したものの、何らかの理由により、十分学ぶことができず、学び直しを希望する方」というふうにしたということ、またその下の4つ目に「現在、さまざまな事情で中学校に十分通っていない方」ということを付け加えさせていただきました。

こちらの4つ目については、在籍かどうかに関わらず、どの程度のニーズがあるのかというのをこちらで把握したいという意図があります。

また、対象については、町内での広報の結果によっては、より広域へも広げていきたいというふうに考えております。

(3)方法についてですが、①の特定の方に関して、赤字でお示ししましたように、社会福

社協議会やハローワーク、児童相談所等を追加をいたしました。

また、スクールサポーターによる聞き取りに関しては、これまでスクールサポーターが関わったことがある方だけではなく、現在、スクールサポーターが関わっている児童生徒の皆さんにも個別に聞き取りを行うことで、現役小中学生のニーズを把握していきたいと考えています。

(4) 期間については、特定の方・不特定の方の両方とも、一旦は9月末ごろまでを考えておりますが、こちらはあくまでも一旦の締め切りのため、その後も個別に聞き取りを行ったり、より広域への対象を広げていったりする等して、継続していくことを想定しております。

10月の第5回設置準備会議で、状況の中間報告をさせていただく予定です。

続いて33ページ以降をご覧ください。

ここから、2. 内容ということで(1) アンケート及び聞き取りの内容に入っていきます。

①アンケートは、本人に向けたもの、保護者・支援者・地域の方に向けたものの2種類を作成していきます。

また、②アンケートの内容は、長野県教育委員会が行った令和5年度夜間中学ニーズ調査での質問項目をもとに、町として独自の形式を作成いたします。

以下でお示しする、グレーの網掛けの部分が、町独自で考えた部分になります。

また、③聞き取りについても、こちらのアンケートの内容をもとに行ってまいります。

(2) アンケート及び聞き取りの内容ということで、これ以降、本人に向けたアンケートの内容になります。

趣旨の部分についてが、その四角で囲まれた部分になります。

詳しくは資料をご覧ください。

これ以降、設問となっていきますけれども、町独自の内容のところについてのみ説明をさせていただきます。

②で『夜間中学について「知っている」と答えた方は、夜間中学を知ったきっかけを教えてください。』ということで、質問を追加いたしました。今後の夜間中学を含めた軽井沢オープンダスクール(仮称)の広報のあり方の参考にさせていただくために追加をいたしました。

また、④と⑤のところでは、③で「夜間中学が近くにあったら、通ってみたいですか」という質問に対して、「通ってみたいと思わない」「どちらともいえない」というふうに答えた方にも理由をお聞きするということを考えました。

こちらについても、今後夜間中学を含めた、軽井沢オープンダスクール(仮称)のあり方の参考にさせていただくためという意図があります。

では、34ページをお願いします。

34ページ以降からは、③の質問で「通ってみたい」と答えた方への質問になります。

⑥では、住んでいる場所をお聞きしています。

まずは町内での調査となりますが、町外在住であっても町内に通勤等している場合も想定されるため、このような設問といたしました。

また、⑧では国籍をお聞きする質問になりますが、網掛けの部分については、町内の実情を勘案しまして、追加をした部分になります。

⑨では「あなたは次の、どの項目にあてはまりますか。」ということで、一部網掛けの部分がありますけれども、こちらは先ほどお示しした1. 概要の(2)対象の方に、「その他」を加えた内容となっております。

35 ページについては説明を割愛させていただきます。

36 ページをお願いいたします。

⑯では、「夜間中学についてのご意見や期待すること、通ううえでの不安があれば、自由に書いてください。」というふうな設問になっておりますが、こちらは第1回設置準備会議で委員の皆様からいただいたご意見をもとに、「通ううえでの不安」という文言を追加いたしました。

また⑰では、「今後、軽井沢町教育委員会から連絡をさせていただく場合、もし、ご了承いただける方は、お名前と連絡先をご記入ください」ということで名前と連絡先をご記入いただくこととなりますが、回答の内容をもとに、今後継続して聞き取りとさせていただくことができるかを確認するために追加いたしました。

最後の四角で囲まれた部分では、QRコードを追加し、夜間中学についてより理解を深めていただくことができるようにいたしました。

では、続けて 37 ページをお願いいたします。

(3) では、アンケート及び聞き取りの内容ということで、保護者・支援者・地域の方に向けたアンケートとなります。

アンケートの趣旨の部分については、先ほどの本人に向けたアンケートでの趣旨の説明に準じ、以下の内容を考えております。

ご覧いただきたいと思います。

これ以降の設問に関してですが、②「身近にいる」「思いつく人がいる」と答えた方に、「仕事やボランティアで知っている人」という場合に具体的にその内容をお聞きすることにいたしました。

これについては、どのような仕事やボランティアで知った方かを聞くことで、今後の支援者や関係機関の把握の参考とさせていただきたいと考えました。

その次の③については、本人に向けたアンケートの中の⑨の選択肢に準じた内容としております。

また、⑤の「夜間中学を知らせたい人が住んでいるのはどこですか」というところについて

も、本人に向けたアンケートの⑥の選択肢に準じた内容としております。

38 ページをご覧ください。

⑧では、やはり「軽井沢町教育委員会から連絡をさせていただく場合に、ご了承いただける方はお名前と連絡先をご記入ください」ということなのですが、保護者、支援者地域の方にも回答内容をもとに、今後継続して聞き取り等させていただくことができるかを確認したいということで追加いたしました。

また、最後の四角で囲まれた部分については、QR コードを載せたということ。

本人に向けたアンケートと同様の内容にいたしました。

以上でアンケート及び聞き取りの内容については終わります。

最後に、38 ページ下方の3. その他に関してですが、(1)「町で作成し設置するチラシ」については、41 ページに【資料4-3】、【資料4-4】ということで、こちらは令和5年度夜間中学ニーズ調査の際に、長野県教育委員会が作成されたチラシを参考に、日本語版と英語版を作成いたしました。

この内、真ん中の右の方に＜時間割（1つの例）＞というふうに書かれた部分がありますがけれども、こちらはいろいろな参考資料から1時間程度早めた時間としております。

これは軽井沢オープンドアスクール（仮称）の夜間中学について、学びの多様な学校との合同授業の実施を想定しているということや、軽井沢町という地域柄、夜の8時頃には人通りが少なくなってしまう、公共交通機関も運行数が減ってしまうという実情がありますので、生徒の安全な下校に配慮したいというふうを考え、あくまでも1つの例ですがこのようにお示ししております。

(2) 留意事項については資料ご覧ください。

では、以上で夜間中学についての説明を終わりにします。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

ポイントとしましては、今までのニーズ調査というふうなものに関しては、その結果によってニーズがあるなしの判断ができてしまうというふうなことに対する疑義をいただきましたので、今回広報というふうな形にしまして、ニーズがあるという前提でアンケートを実施するというのが1つ。

また、(2)にかかわりますが、現在、さまざまな事情で中学校に通っていない方に対してのメッセージも考慮したものになっているというのが2つ目です。

3つ目は、実施という項目が32 ページ目の末にありますけれども、まずはやってみてですね、その状況を皆さんに随時ご報告しながら、引き続き取り組んでいくというなります。

アンケートの内容については、細かな点もありますけれども、皆さんからいただいた点を最大限考慮して作ったというふうなところまでできております。

ご意見いただけたらと思います。
いかがでしょうか。

【H委員】（岡田委員）

委員の意見をかなり反映していただいてありがとうございます。

細かいところなのですが、確認というか、お願いがあります。

アンケートの内容で、33 ページ③「近くにあったら、通ってみたいですか」ということで、「通ってみたい」「通ってみたいと思わない」「どちらともいえない」とあります。

ただ、この「通ってみたいと思わない」と「どちらともいえない」という中に、いろいろ思いがあると思うのです。

そこで、この④⑤で聞いていただいているのですが、これの中にプルダウンで、例えば、④は「学校で十分学んでいるから」ということとか、「健康上難しいから」とか、「その他」とか。

それから⑤では、どちらとも言えないと答えた方は、「通ってみたいけれど、さっきと同じような健康上難しいから」、それから、「経済的に余裕がないから」、それと「時間的に余裕がないから」、あと「その他」ですね。

そういうのをプルダウンで用意していただいたら、理由がわかりやすいと思いました。

それと、35 ページの⑩に、「中学校にあまり通えていなかったため、中学校生活をやり直したいから」という文言を書き加えていただきたいのです。

学ぶことって、学力保障だけが夜間中学の役割ではないのです。

例えば、高校、大学を出ている方も学び直しに来られています。なぜかという、中学校生活が全然できなかったため、それが自分の中ですごく引っかかって、自信がないのだと。

みんなと同じようにそういう自信を取り戻したいがために、夜間中学に通っている方も全国にいらっしゃいます。

それと、⑫も項目を1つ付け加えていただきたいんですけれども、「歩いて通えない場合はどうするか」という質問なのですが、まだ、どこにあるかわからないので、「学校がある場所による」というのを入れておくべきかなと思いました。

あと、もう1つだけ、これが1番大きなお願いなのですが、夜間中学の対象者の掘り起こしは本当に難しいです。予想以上に難しいです。

だから、本腰を入れて広報をしていく必要があります。

このアンケートを広報に変えたというだけじゃなくて、周知のためのイベントをやる必要があると思います。

提案なのですが、この中で「35 年目のラブレター」という、3月にロードショーになった映画を見られた方いらっしゃいますか。

これをね、イベントとして利用できないかなと思ひまして。

鶴瓶さんが演じられた、実物の人物で西畑保さんという方がいらっしゃるんですが、奈良県の方で、私は以前から親しくさせていただいています。

なので、その方を呼んでトークショーとかというのをやっても面白いかなと思います。

人集めをする必要がありますし。その中で、チラシを配ったり、夜間中学ってこんなものですということを周知したり、広報のアンケートをお配りしたりということをやったらいかがかなと思いました。

以上です。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

すべて、本当に貴重なご意見をいただきまして、本当にありがとうございます。

事務局の方でもぜひ、もろもろの意見を反映いただけたらなというふうに思います。

他にはご意見いかがでしょうか。

【F委員】（西郷委員）

すいません。

ちょっと教えて欲しいんですが、国籍を聞くというのは、例えばアメリカなんかではタブーというか、聞かないと思いうんです。

日本であれば国籍を聞いてもよいのかどうか、不勉強のため申し訳ないが、失礼に当たらないのか。

多国籍かどうかを知りたいのであれば、日本国籍をお持ちかどうかの質問で済むのではないかと思うのですが、どなたかご存知であれば、お教えいただきたいです。

【M委員】（岩崎委員）

【F委員】（西郷委員）がおっしゃるように、やはり国籍とかいろいろ細かいところを外国ではあまり聞かないですし、聞かれる人たちも嫌がる人が多いです。

ですから、おっしゃる通り日本国籍をお持ちですかというふうにさらりとした方が私もいいのではないかなとは思っています。

それから、ちょっと続きなんですけれども、【H委員】（岡田委員）がおっしゃっていただいたように、この最初の部分の④と⑤があるんですけども、例えばこれで「通ってみたいと思わない」とか「どちらともいえない」という回答に対して、「知らないから」という回答でも大丈夫なんでしょうか。

【H委員】（岡田委員）

そういう選択肢も入れていただいたらいいのではないのでしょうか。

【荒井座長】

はい。ありがとうございました。

今、2点いただきました。

国籍の方については、過去にアンケート調査でこれを聞いているパターンというのはそれなりにあるかと思っています。1つは日本国籍かどうかを伺った後に、差し支えなければ国籍をお書きくださいというような形でもいいのかもしれませんが。

また、過去の事例を調べていただいて、事務局で最適なものを選択いただけたらと思います。

他にはいかがでしょうか。

では【L委員】（福本委員）お願いします。

【L委員】（福本委員）

夜間中学に来られる対象の方の中に、結構、読み書き、特に読みに困難がある方がいらっしゃるかなと思っていて、これだけの文章だといけるんじゃないかという前提が、実はハードルになるかもしれないと思っていて、できるだけ箇条書きが良いのかなと思います。

最初の（2）のところ（説明文）と、⑨番の設問は、同じことが書かれているんですけども、多分、頭の中への入り方が全然違ってくると思うんです。

1文の長さによって、そこでストップしてしまうという方もいらっしゃると思いますし、外国籍の方だと、読んでくれたり・電話で答えるのはできるという方もいらっしゃるんじゃないかなと思うので、できるだけ、1文を短く、もしくは、箇条書きにする、あるいは電話か、先ほど何かイベントをされるというお話もありましたのでその会場での読み上げサポートという形で配慮を差し上げると、答えられなかった方にもリーチできるのではないかなと思いました。

【荒井座長】

はい。具体的な提案ありがとうございました。

では、【D委員】（西野委員）、お願いします。

【D委員】（西野委員）

先ほどの国籍のところは、国籍が聞きたかったのか、それとも母国語が聞けたらいいというぐらいかなと思いました。

日本国籍があるかを聞いて、あとは、あなたの母国語は何かを聞くだけでもいいのではないかなと思いました。

あと、時間がないのでここで一緒に言いますが、チラシのところで、せっかく対象に入った現役中学生が、行ってもいいのかというところが読み取りにくいチラシかなと思ったりしたんですね。

だから、「～こんな方が対象です（例）～」のところに、「さまざまな事情により、中学校に

行くことができず、義務教育を受けることができない方、もしくは、できなかった方」みたいにするか、3番目の丸を「中学校に在籍中、もしくは、卒業したもの」みたいにするのいいのではないかなと。

多分、オープンドアスクールとの併用で夜間中学を作るというチラシだから入ってないのだろうと思うが、せっかく対象を、アンケートの中にも現在就学中の子どもも入れているので、チラシの中にもちょっとした配慮があった方がいいかなと思いました。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

事務局でもご検討いただけたらと思います。

他にはよろしいでしょう。

このアンケート調査は、本当に想像を絶する大変なことが待っていますけれども、どんな結果が出るかは本当に誰も予想ができない中で、事務局を中心に汗をかいていきたいと思っていますし、皆さんにもご協力いただく部分があるかと思っています。

早ければ、いつ頃始めるかの見通しはいかがでしょうか。

【金井軽井沢高校・教育魅力化推進係】

事務局としまして、町内の各種団体の長の方とも調整を進めておりまして、最初のスタートが、7月17日からのスタートになります。

その翌週、7月22日から本格的に動いていきたいと思っております。

以上です。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

多分、お願いする団体とのコミュニケーションが極めて重要かなと思いますので、趣旨の理解等適宜進めていただければと思います。

【H委員】（岡田委員）

すみません。

お時間迫っていると思いますが、もう1点だけチラシの部分で意見がありまして、登校時間が書いてあるところがあって、配慮して16時と書いてあるのですが、実際働いている方が通う場合は、この時間では無理だと思うんです。

なので、せめて17時半登校とかにできないかなと。

交通の便も考えなければならないですし、その設置場所にもよりますけれども、最終の交通機関で帰れるということも考えて、ギリギリ遅めにしていただいた方が、働いている方が通いやすいのではないかと思います。

あともう1つ、この教育支援センターのような位置づけっていうところについての意見を言ってもいいですか。

1つ参考にということで、香川県三豊市に夜間中学を併設した学びの多様化学校があるのですけれども、私もその設置検討には関わってきました。

そこでは、体験学習ということで、学齢期の子どもがそこに来て、学びの多様化学校と夜間中学を、少なくとも1ヶ月体験してもらうことになっています。

そこで納得がいったら転籍ということになるのですけれども、多い子では4～5か月体験をする子もいます。だから、その期間は教育支援センター的な役割・機能・位置づけでいいのではないかと思います。

で、転校したいという希望があれば、転校ということにしてみてもいいかなという1つの提案です。

【荒井座長】

はい、ありがとうございます。

三豊市は実際に、そのような機能として対応されていたという理解でいいですか。

【H委員】（岡田委員）

実際そこへ通ったら、在籍校の出席扱いになっています。

【荒井座長】

わかりました、ありがとうございます。

この時間割に関して、事務局としては、学びの多様化学校との兼ね合いで、あえて重複する部分があるということで、16時にしていますけれども、今の【H委員】（岡田委員）のお話だと17時半、お仕事を終えられてからということでした。

どっちに寄せたときに、どう響くのかというのが何とも言えないですが、また事務局でもんでいただければと思います。

ありがとうございます。

【H委員】（岡田委員）

三重県なんかは、昼間部・夜間部という二部制でやっています。

学びの多様化学校も昼間部・夜間部、夜間中学も昼間部・夜間部という方式でやっていますので、それも参考にご覧いただければと思います。

【荒井座長】

はい、ありがとうございます。

チラシに記載の、「1つの例」というのがどれぐらい伝わるかというのが非常に難しい部分

かなと思いますけれども、検討を重ねたいと思います。
ありがとうございます。

●（５）設置場所について

【荒井座長】

それでは、（５）へ移らせていただきたいと思います。

次第をご覧ください。

設置場所についてということで、お手元の【資料５】をご覧ください、事務局より説明をお願いいたします。

【宮本教育長】

はい。よろしくお願いします。

【資料５】をご覧くださいければと思いますけれども、設置場所についてということで、前回会議の最後のところで、事務局として何らかの資料をお出しして設置場所について話題にしていきたいというお話をさせていただきました。

そこで、資料を準備いたしました。

まず１．設置形態について、第１回設置準備会議のところでお示したスクールコンセプトには、「学びの多様化学校」と「夜間中学」を併設した新しい学びの場ということ、それと軽井沢中学校の分校として設置するということを提案させていただきました。

それで、設置場所を選定ということで、事務局で考えた視点を５つ記載させていただきました。

まず、１番目が、第１回設置準備会議でお示したスクールコンセプトに記載しました、町内の既存の公共施設を、必要な範囲で改修等を行い、使用していきたいという視点。

２番目以降は、今回初めてお示していますけれども、設置に必要な教室や図書館等がすでにある、あるいは、そういったものが設置可能であることや、運動場・体育館が、その場所にあるか、近隣で利用可能であること、中学生が安全に自力で通学可能であること。

そして５番目が、本校以外の場所ということで、本校が軽井沢中学校になるわけですので、軽井沢中学校以外の場所を想定していますけれども、これについてご意見いただければと思います。

以上です。

【荒井座長】

ありがとうございました。

【資料５】について、これまで口頭で説明していた部分と、新たに「視点」ということで現時点で出せるものを事務局としてご提案いただいたという形になります。

この点について、ご意見というのも難しいかもしれませんが、いかがでしょうか。

【Ｂ委員】（木村委員）

軽井沢中学校の分校として、夜間中学が併設されるという捉え方ですか。

【荒井座長】

ここに書いてあるとおりです。

事務局の提案としてはそうです。

【宮本教育長】

補足しますけれども、「学びの多様化学校」と「夜間中学」というのは、3つの設置形態があります。

1つは分教室型、もう1つが分校型、それと本校型です。

分教室型というのは、どこかの施設の一部を使う形態で、分校型というのは1つの学校ですが、分校として設置する形態。

そして本校型というのは、新たな学校をつくる、あるいは今廃校になった学校に設置をするという、3つのパターンがあります。

分校型としての設置を考えているのは、教員定数の関係が1番潤沢であるためです。

【B委員】（木村委員）

ありがとうございます。

これは、大人の問題ですよね。

大人の問題は、表に出さなくてもいいかなと思うんですね。

もちろん大人の問題として、そういう形でいろんなものを確保していくというのは必須条件ですから。

でも、軽井沢中学校の分校として夜間中学を作りますということは、子どもたちは知らなくてもいいと思いませんか。

学校の中で、中学校に行ってる子と、中学校に行けない子が分校に行っているんだと言ったら、軽井沢の街をつくる未来の大人たちはどんな未来を作るのか心配になるんですが、【E委員】（山崎委員）はどのようにお考えですか。

【E委員】（山崎委員）

はい、ありがとうございます。

不登校のお子さんが行く、行かないとかという話は、第1回設置準備会議が開かれたときに指摘されましたので、みんなで軽井沢町にある既存の学校、小学校3校と中学校1校、そしてオープンドアスクールを含めて、みんなで「みんなの学校」をつくっていきましょうという形でアンケートをやったり、グループワークがスタートしたということです。

分校を作るということを伝えなくていいかどうかということに関しては、これから慎重に考えていかなければならないと思うんですけれども、オープンドアスクールを作るということは

わかっているんですが、形態についてはまだ詳しく（教員や子どもへ）降ろしていないというところですよ。

【B 委員】（木村委員）

今、先生がおっしゃったことは、大人の合意事項ですよ。

その大人の合意事項を、生徒たちが聞いて「あれ？」って思わないかというところなんです。そこなんです、問題は。

夜間中学に、現役の中学生が行くかもしれない。

この子が、夜間中学で学び直しできたと、何か未来に繋がっていくことが目的だと思うんですよ。

ですので、大人の事情を知らなくても、そこに通う子が同様に育つようにしていくのが、先生の仕事かなと思います。

【G 委員】（本城委員）

学校の名前をどうするかということでもいいのではないかなと思っていて、別に、わざわざ軽井沢中学校分校という必要はないと思うんですよ。

町内の学校は、軽井沢東部小、軽井沢中部小、軽井沢西部小、軽井沢中学校と、全部の学校に「軽井沢」がついているので、風越学園はわざと同じような形になるために「軽井沢風越学園」とつけたんです。

ですので、このオープンドスクールが、「軽井沢〇〇中学校」とかいう方がいいのか、それとももう少しカッコいい名前とか、別の名前がいいのかということなのかなと。

少し違う名前の方が、目立つかもしれないし、ちょっと違う学校というのが子どもたちにとってどうなのか、「軽井沢〇〇中学校」の方が行きやすいのかというところは考えなければいけないと思いますが。

【B 委員】（木村委員）

子どもたちから名前を応募したらいいんじゃないですか。

すごくいい名前を付けるんじゃないかなと。

大空小学校は、大阪市の公立小学校なんですけど、市内にある 300 校の公立学校の中で唯一地域名が入らない学校なんです。

なぜ大空小学校という名前になったのかというと、大空小学校が建っている地域は地域差別があって、20 年間学校が開校できないという地域の問題を抱えていたんです。

だから、地域名を学校の名前にするとどうしても過去の差別を引き続きということで、区全

体で区長にも決断していただいて、区民から新しくできる学校の名前を募集したんです。

220 通ぐらい集まった中に、元々ある大きな学校の 1 人の 5 年生の子どもの案があって、「大空小学校という名前がいい。その理由は、大空のような限りなく羽ばたける、そんな自分になりたいから」と書いてあったんです。

学校の開校実行委員の委員たちは、いくつかピックアップしたところから、子どもたちを選んでもらおうということで、当時通っていた 1,143 人の子どもたちが最終的に選挙をして、大空小学校に決めたんです。

中学校の子どもたちに、新しくできる「夜間中学」どんな名前がいいかと尋ねたら、そこで初めて自分ごと・当事者性を持ってその中学校の名前を決めたりするんじゃないかと、今【G 委員】（本城委員）の話を聞いていて思いました。

1 つの手段ですが。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

今、いろいろ意見をいただきましたが、まず設置場所については、当然のことながら皆さんと作っていくことですので、子どもの声を聞きながら、校名も含めて揉んでいくというのは大前提な話で、今回場所についてご提案いただいたということで、ご理解いただけたらと思っています。

このあたりについていかがでしょうか。

【J 委員】（上原委員）、お願いいたします。

【J 委員】（上原委員）

はい。

設置場所について、今ご説明いただいて、この視点に当てはまるっていう点で、本校、以前は 4 クラス規模で募集していたんですが、現在 2 クラス募集になっておりまして、その関係で北校舎がほぼ空いている状態になります。

設置者が長野県教育委員会ですので、相談等必要になるかとは思いますが、1 つの設置場所として検討する余地はあるのではないかとということでご意見を述べさせていただきます。

【荒井座長】

ありがとうございました。

軽井沢高校を候補地にということで、1 つのご提案です。

今まさにお話にありましたが、県立ですので設置主体が違うということでの調整や、あるいは職員の皆さんのご理解というところもあるかと思いますが、1 つのご提案をいただいたということです。ありがとうございます。

他には、場所について何かご意見ありますでしょうか。

【G委員】（本城委員）

軽井沢高校も1つの選択肢かなと思います。

ただ、やはり学校なので、子どもたちがまた学校に行くというような雰囲気にもなるので、どれだけ改修できるかということによるかなと思いますので、かなり大規模な改修が必要になるだろうなと思います。

どれぐらいの規模でやるのかというようなことの検討だとは思いますが、もしオープンドアスクールを小さい規模でやるのであれば、例えば風越公園オリンピック記念館みたいながあるので、そこを少し改修すれば、運動場も体育館も風越公園にありますから、そういった方法もあるだろうなと思います。

高校だとチャイムが鳴りますよね。

そのチャイムが鳴るっていうふうなことが、オープンドアスクールに通う子どもたちにとって、どういう影響を与えるのか・与えないのか、知っている先輩がいるとかがどんな影響を与えるのかというようなことは、よくよく考えなければいけないかなと。

使いやすい場所、空いている場所ということもあるんですけども、子どもにとってどういう影響があるのかということは、確かめながら場所は選んでいけるといいかなと思います。

ただ、たくさんの選択肢があるわけではないですし、お金の問題もあると思うので、最終的に現実的なところにはなるとは思いますけども、とにかく子どものことをちゃんと考えられるといいなと思います。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

1つのご意見として、承りました。

他には皆さま、いかがでしょうか。

【H委員】（岡田委員）

質問なんですが、本校型ではなく分校型にしようと思われた理由はどのようなものなのでしょうか。

【宮本教育長】

最初に、このオープンドアスクールを作るといときの町長への説明とか、そういったところからもう分校型で考えていまして、本校型となると大きな建物や場所が必要になってくるので、それを新設するという事は考えてはいないということからです。

【H委員】（岡田委員）

分校型と本校型の違いというと、校長がいるかいないかだと思うんです。

施設面においては、両方とも同じような改修工事をしなければならないと理解しているんです。

本校型であれば、独立した校長がいるわけですから、独自の教育課程や教育理念というものを作ることができるのではないかと思うのですが、そのあたりはいかがでしょうか。

【宮本教育長】

今それを決めるというやり取りではないので、本校型と分校型の違いみたいなものをまたご説明していきたいと思います。

【荒井座長】

ありがとうございました。

では、文部科学省のホームページも含めて、皆さんに第1回設置準備会議でお配りした資料にもありましたけれども、それぞれの設置形態によって、何がどう違うのかというところを改めて目くばせいただきながら進めていけたらなと思ってますし、改めて事務局の方でも、その辺りを整理したものを情報共有するような準備をお願いできればと思っております。

●（６）その他

【荒井座長】

司会の不手際で時間超過してしまいましたけれども、（６）の方に移らせていただきたいと思います。

その他ということで、皆様方、あるいは事務局の方、いかがでしょうか。

【Ｌ委員】（福本委員）

すいません。

アンケートのところでお伝えしたらよかったんですが、すごく細かいところなのですが、アンケートの集計のところに、パーセンテージが入っていると、比較がしやすいと思ひまして、通常学校に行っているお子さんと不登校とか、小学生と中学生とか、そのあたりがすぐ比較できるように、パーセンテージを入れていただけたらと思います。

【荒井座長】

はい、ありがとうございました。

他にいかがでしょうか。

●５．その他

【荒井座長】

では、（６）はここまでということで、５．その他ということで、次回以降の流れも含めて事務局から説明をお願いいたします。

【岩井こども教育課長】

はい。

荒井座長、委員の皆様、ありがとうございました。

その他について、事務局より説明いたします。

【宮本教育長】

次第に書いてありますけど、第４回は９月２２日になります。

その日の１３時から、１５時頃までになると思いますが、フォーラム＆ワークショップを考えておりまして、内容についてはまだしっかりと固まっていないんですけれども、ご協力いただける委員さんとか、荒井座長には、ミニ講演会あるいは、シンポジウムとか、パネルディスカッション等をやっていただければと考えています。

これからまた、ご相談させていただければと思っています。

以上です。

【岩井こども教育課長】

ただいま説明がありましたとおり、9月実施のフォーラム&ワークショップにつきまして、委員の皆様を始め、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

最後になりましたが、委員の皆様から全体を通して、何かありましたらお願いしたいと思えます。

よろしいでしょうか。

● 7. 閉 会

【岩井こども教育課長】

それでは、以上をもちまして第3回軽井沢町オープンドアスクール（仮称）設置準備会議を終了といたします。

長時間、ありがとうございました。